

エンパワースタジオ公開 世界最大級 VR 空間に驚き

5メートル巨人の歩行を体験

コンピュータ技術で作られた三次元空間を体験できる「バーチャリアリティ(VR)技術」の展示施設「エンパワースタジオ」が第三エリアに建設され、11月13日に一般公開された。筑波大グローバル教育院の、工学で人の動きや生活を補助する方法を研究する「エンパワメント情報学プログラム」の拠点となる施設。世界最大級のVR技術を投影するスペースや、身長5.5メートルの巨人になった気分を味わえるロボットなどがある。同施設を体験した。

(井口彩二社会学類3年、12面に関連写真)



■700平方メートルの巨大なバーチャル空間 エンパワースタジオは開発中の装置を試験する部屋

「Big Robot Mk1」に乗る記者。足が伸び、巨人になったような感覚がする(11月12日、エンパワースタジオ) 広報室提供

取材日は欧州の教会の映像が部屋全体に映された。専用の3Dメガネをかけた歩くと、3Dメガネには頭の位置などを感知するセンサーが付いている。

また、天井からつり下げられた7本のワイヤーを体に着けると、建物を高い位置から見下ろせる。ワイヤーを動かす装置が作動すると体が上に引っ張られ、一気に高さは約6.5メートルに。センサーが高さを感知して映像が変わり、通常の目線では見えない高い位置から教会の内部ののぞくことができた。

巨人の歩行感覚を体験した体験したのは、身長5.5メートルのロボット「Big Robot Mk1」。車輪の付いた脚がある台に乗り、左右交互に進退する車輪の動きに合わせて足を動かすことで、5.5メートルの歩行感覚を体験できる装置だ。

高所作業車でロボットに乗り込んだ。高さにはひるみ、がっしりと手すりをつかんでいると、ロボットが左足から動き出した。足が左前に引っ張られ、全身が左に傾きよけた。ロボットを開発した岩田洋夫エンパワメント情報学プログラムリーダー(シス情系)教授から「ロボットの動きに体をあわせて面白いですよ」と言われ体の力を抜くと、自然に歩くことができた。自分の足が何倍にも伸びたような不思議な感覚だった。

岩田教授は「エンパワースタジオの設備を生かして研究だけでなく展示も日常的に行っていく。今後も定期的に一般公開したい」と展望を語った。

装置を体験したい場合はエンパワメント情報学プログラム事務室への事前連絡が必要。電話番号は029-853-8740。

中東・北アフリカ週間 シリアの現状知る



現地の様子について話すシリア人留学生(11月15日、つくばサイエンス・インフォメーションセンター)

11月11-18日の1週間を「MENA Week(中東・北アフリカ週間)」とし、中東や北アフリカの文化や政治を紹介するさまざまなイベントが筑波大学などで行われた。

15日は、シリア出身学生などを招き、つくばサイエンス・インフォメーションセンター(つくば市吾妻)で公開シンポジウム「シリアの声を聴くー内戦、難民、今私たちにできること」を開催。中東・北アフリカ地域の情勢を研究する岩崎真紀助教(人社系)やシリアに留学した嶋田優奈さん(国総2年)らが講演を行い、難民キャンプでの生活や、過激派組織「イスラム国」(IS)に破壊された遺跡の画像などを紹介した。嶋田さんは「ISに支配されるまでシリアは平和を切望していることを知り、それを周りに伝えることが重要だ」と指摘した。

シンポジウムの最後にはシリアの人々のために何が出来るか参加者同士で話し合う時間も設けられた。

主催した入江光輝准教授(生環系)は「日本人だけでなくシリア人留学生の声も聞けて良かった。長期的な成果を出すためにもっと多くの人にシリアの現状を知ってほしい」と話した。

参加した中田悠飛さん(比文2年)は「シリアの平和を取り戻すには、実際にシリア人学生の声を聞いたり、シリアに留学した日本人学生の体験談を聞くことが大切だと思った」と語った。(加藤未修社会学類1年、写真も)

人社系教員が学校を訪問

著書を提供、議論行う

筑波大学人社系は、河合塾の協力を得て、同系の教員が出版した著書を主に高校生に無償で提供し、高校で講師として生徒と意見交換する社会連携事業「学問本オーサービジット」を10月から開始した。高校生の課外活動を応援することが目的で、高校生が著者と語りながら自由に意見を交換する場として期待されている。

(林健太郎社会学類3年、写真も)

高校生が同事業を利用する際は、計20冊の書籍から希望する1冊を選び、応募。高校生が希望した著書を筑波大が事前に提供し、その後著者である教員が学校を訪問する。応募グループの人数は自由だが書籍により提供できる冊数が異なる。

11月28日に開成中学校(東京都荒川区)で行われた読書会には、竹中佳彦教授(人社系)が出席。中学生2人と高校生4人に蒲島

郁夫熊本県知事との共著「アオロギ」(東京大学出版会)を基に説明を行った。この中で、竹中教授は自身の研究結果を示しながら、政治や社会のあるべき姿に関する人々の理念である「アオロギ」について、それが政党や政策の支持にどう影響を与えるかを重点的に解説した。

その後、来年6月に選挙権年齢が18歳以上に変わることや、参議院の存在意義なども議論した。終始和や



中高生と政治について議論する竹中教授(11月28日、開成中学校で)

かな雰囲気話し合いが行われ、生徒は同教授の話をノートに書き留めながら真剣な眼差しで聞いていた。

参加した開成高校2年の遠藤達明さんは「著者の話を直接聞けて良かった。アオロギを数値化することで有権者の政治意識を分析できると本を通して知り興味深かった」と話した。

授業後、竹中教授は「今回使用した本は大学生や大学院生を讀者として想定しているが、中学生から自分の本の内容について積極的に意見を述べてもらい、とても楽しい時間を過ごせた」と語った。

トルクメニスタン大使 「日本と関係深めたい」

トルクメニスタン・日本学生フォーラム2015が11月10日に大学会館で開催され、駐日トルクメニスタン大使らの講演が行われた。トルクメン人留学生や日本人学生など学内外から



日本とトルクメニスタンの友好関係について語る大使(11月10日、大学会館で)

約100人が訪れた。フォーラムの前半では、日本人とトルクメン人の学生が集まり、トルクメン語の詩の朗読やトルクメニスタンと中央アジアの大学紹介が行われた。

後半はトルクメン人留学生のバディムラド・オバズムラドフさん(社工専攻1年)とトルクメニスタン留学経験者の学生の新谷修一さん(比文4年)が、自身を取り組む研究や留学体験記を発表。その後、駐日トルクメニスタン大使館特命全権大使や外務省欧州局の中央アジアコーカサス室首席事務官が日本とトルクメニスタンの関係について話した。

エリヤソフ・グルハンマメント特命全権大使は「今年10月に安倍晋三首相がトルクメニスタンの首都アシュガバトを訪問し、首脳会談した際、経済協力の実施を目標とするなど一致している国同士、今後も日本との協力関係を強化していきたい」と述べた。

催事

吹奏楽団第74回定期演奏会

12月18日(金)にフバホール(つくば市吾妻)で行われる。午後6時開場、午後6時30分開演。バレエ音楽「中国の不思議な役人」や「スクーターン・オン・ハードロック」、リンカン・チャーターの花束などを演奏予定。

チケットは前売り券が400円、当日券は600円。チケット予約・問い合わせはusb_inquiry@hotmail.com

詳細はhttp://sound.jp/usb/concert.html (筑波大学吹奏楽団ホームページ)

震災復興シンポジウム

来年1月14日(木)に茨城県総合福祉会館コミュニティホール(水戸市千波町)で行われる。午前の部は午前10時30分から午後0時30分。午後の部は午後1時30分から午後4時30分。

筑波大学の学生が作成したドキュメンタリー映画「いわきノート」の上映や、自然災害についての発表などを行う。

定員は296名。参加無料、申込不要。

問い合わせ029-853-8491(生命環境系・八木勇治教授研究室)

詳細はmegquake.tsukuba@gmail.com (筑波大学巨大地震プロジェクト)

応援部WINS第4回単独公演

来年1月16日(土)につくばカピオホール(つくば市竹園)で開催される。午後5時30分開場、午後6時開演。

主な演目は「筑波大学応援歌」、リーダーステージ、野球応援メドレーなど。

問い合わせwins_tsukuba_cheer@yahoo.co.jp (筑波大学応援部WINS)

訂正とおわび

参加したトルクメン人留学生は「筑波大学にはトルクメン人の学生が少ないので、こうしたイベントで日本人学生との交流を深めたい」と話した。(テポレビ・マリヤムII図書館情報メディア専攻1年、写真も) おわびして訂正します。

324号2面の杉田倫明教授(生環系)の研究についての記事で、写真の著作権はJICAにある旨を掲載していませんでした。

筑波大学学生人材バンクに迫る

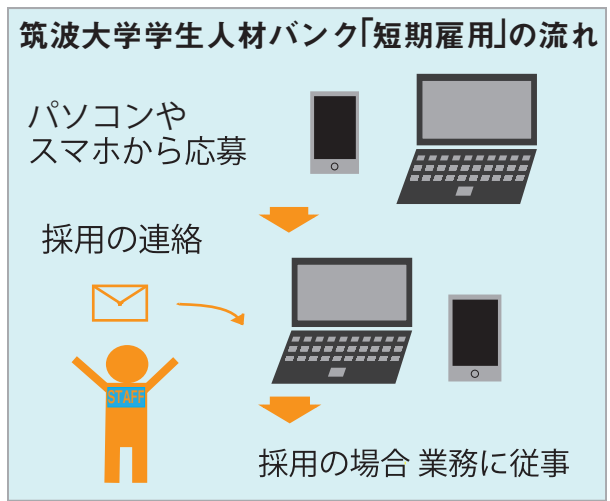
筑波大学は今年8月、大学の教職員が学生を雇用して大学業務の補助を行わせたり、将来起業を目指す学生に大学業務を委託する「筑波大学学生人材バンク」の制度を開始した。この制度で、学生が主体的に大学に関われると期待されている。同制度の詳しい事業内容や今後の展望について、学生生活課や、実際に同バンクを利用した職員、短期雇用を経験した学生、他大学の制度を取材した(佐々木悠里)人文学類、徳永翼)日本語・日本文化学類、新田萌夏)社会学類、深作歩美)生物資源学類

大学が学生に業務を委託

「筑波大学学生人材バンク」は、永田恭介学長の「学生の自主的・主体的な活動を支援するため、学生が学内・働く場を設けて報酬を受け取る仕組みを実現したい」という意向を受け、学生への経済的支援やキャリア支援を兼ねた制度として今年度から始まった。同制度の事業は「短期雇用」「委託業務」の2種類。



筑波大学学生人材バンクのウェブページ



短期雇用は、大学が学生を1カ月以内の一定期間雇用する。学生が学内・働く場の運営補助や事務作業などの補助業務を行う。時給は一律800円。従来は教職員が知り合いの学生などを通じて募集することが多かったが、同制度のウェブページやメールサービスを使うことで、多くの学生が応募できるという。

マナー研修が必要な大学も

大学が学生を大学内で雇う動きは他大学でも活発だ。他大学の各担当者に取材した。

■嘉悦大学 (東京都小平市)

学内の求人や学生の登録情報を管理する「ヒューマンリソースセンター(HRC)」は学生と教職員で運営。学生は6、7人が運営に携わる。学内のさまざまな業務を行うために、HRCが学生と学内の各部署を仲介し、業務ごとに学生を募集・派遣している。主

■金沢工業大学 (石川県野々市市)

大学運営に積極的に関わり自分たちのキャンパス環境をよりの良くする取り組みを

■聖学院大学 (埼玉県上尾市)

15年ほど前から学生を大学内で雇用する仕組みを確立。各部署で学生のアルバイトを募集しているが、入試業務などを行う「アドミッションセンター」でオープンキャンパスでの案内や入学試験の案内などの業務を行うアルバイトを募集している。登録には履歴書や成績書を提出したり面接試験を通過することが必要。時給は800円、現

■広島大学 (広島県東広島市)

大学生が大学の業務にアルバイトとして従事する「大学運営支援業務」という制度があり、業務内容や勤務期間などにより「フェリックスアシスタント(PA)」と「学内一般アルバイト」の2つに分かれる。PAは図書館の窓口業務やウェブページの作成など比較的時間にわたる業務で、学内一般アルバイトは1ヵ月未満の期間で事務作業などを行う。時給は業務内容

■早稲田大学 (東京都新宿区)

2014年10月に「学生参加型・シヨブセンター」を開設。入学試験の監督や図書館業務、教員の研究補助・清掃業務などを行う。担当者によると、約7300人の学生が働いているという。時給は910円から1200円。学生専用のウェブページから求人情報を探し、学生が求人を募集している各部署に直接連絡する。

「学生の働きに感謝」



受付業務を行う小倉さん(左)と東條さん(左から2番目) (10月31日、7A棟) =新田萌夏撮影

「短期雇用」に採用された学生はどのように大学の業務を行っているのか。10月31日、7A棟で行われた「茨城県がんのりハビリテーション研修会」と、11月7日に大学会館で行われた「ホームカミングデー(校友会・同窓会)」で働く学生の様子を取材した。

研修会の前日、小倉未優(工学2年)は、研修会の参加者が使う机と椅子を配置していた。筑波大学学生人材バンクを利用し、研修会当日、午前8時に集合した2人は職員の説明を受けた後、午前8時半から職員と受付業務を開始した。作業は、参加者から参加票を受け取った後、受付表にサインを促し、会場へ案内する比較的単純なもの。だが、研修会が始まる午前9時が近づくと参加者が受付に殺到した。東條さんは「残業がなく、仕事もやりやすかった。今後学生人材バンクを利用したい」と意欲を見せた。東條さんも「3年生からは授業など忙しいから、時間を見つけて短期雇用で働きたい」と話した。

ホームカミングデー

筑波大の卒業・修了生らと教職員との交流会「ホームカミングデー」で、岡川ペジから学生人材バンクを知り、「短期雇用の給料を生活費の足しにしたい」と登録したという。業務は会場の準備、机や書類などの片付け、受付など多岐にわたった。受付業務では、来場した参加者に付の食事や机と書類の片付けが中心で、それほど大変ではなかったと振り返り、

「メールで業務確認便利」

340人が参加した。岡川さんは、今回初めて筑波大学学生人材バンクを利用した。大学のホームページから学生人材バンクを知り、「短期雇用の給料を生活費の足しにしたい」と登録したという。業務は会場の準備、机や書類などの片付け、受付など多岐にわたった。受付業務では、来場した参加者に付の食事や机と書類の片付けが中心で、それほど大変ではなかったと振り返り、

ダンス系団体 勢揃い 出演者全員でのダンスも



作品の世界観を全身で表現するダンス部 (11月18日、中央体育館ダンス場で)

互いに交流深める

筑波大学ダンス部主催の「動くダンスチーム」など計6団体が参加した。団体同士の交流を深め活動を学内に発信することが目的で、今年で10度目の開催。立ち見が出るほどの大盛況で、踊り手も大活躍。

各団体の特色を生かしたダンスが舞台を彩った。ダンス部は、8月に行われた第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバルで文部科学大臣賞を受賞した。筑波大学応援部WINGSは、応援マドレーなど2演目を発表。力強い応援や活気あふれるチアダンスで会場を盛り上げた。

最後に、出演者全員がTHE BOOMの「風になりたい」に合わせてダンスを踊った。

ダンス部部長の江上芳樹さん(体専3年)は、「無事に公演を終えることができて安心している。来年、再来年もダンスエクスペリエンスを進化させていってほしい」と語った。(橋野朝奈) 日本文化学類1年、写真も。12面に関連写真)

大学院生の力作集う 日ごろの成果を発表



小野さんの銅版画の作品。本物の葉や花が使用されている (11月15日、茨城県つくば美術館で)

筑波大学人間総合科学府研究科芸術専攻博士後期課程の学生作品を展示する「第12回DC展」が11月10-15日に、博士前期課程の学生作品を展示する「第31回MC展」が17-23日に茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開催された。

両展は学生の日ごろの制作・研究の成果を学外に発表し、今後の制作の糧とするのを目的に毎年開催されている。

DC展では16人の学生の全47作品が展示された。作品は日本画、洋画、版画、書、彫塑と多岐に及んだ。小野修平さん(芸術3年)は銅版画の作品。作品には本物の葉や花が使用され、それらと手書きの絵を画面上で融合させる方法を研究していたという。小野さんは「版画は刷るまでどんな絵が出るかわからない。そ

のため自分の想像を超える作品が作れるので面白い」と話した。

MC展では35人が制作した53作品を展示。出展した学生の多くは、個展やグループ展のほか、全国レベルの公募展にも出品するなど精力的に活動している。つくば市から来た女性性は「来場したのは、今年で3回目だが、自分も絵を描くのでもっと良い刺激になっている。普通の人には考えつかないような着眼点を持っていて驚いた」と話した。(佐々木悠里、写真も)

環境影響、被災に伴う人間行動や社会影響を解説した。学術的な新規性が高く、時機を得た深い有用性を背景に、今後も日本で危惧される「巨大地震」による複合災害に対するリスクマネジメントと統合的な方策を提示する。編著者は筑波大学生命環境系准教授とシステマ情報系教授。A5判並製、224頁。11月25日刊行。2900円十税。



管弦楽団

管弦楽団の金管楽器奏者による「金管アンサンブルコンサート」が、11月22日にノバ小ホール(つくば市吾妻)で開かれた。メンバーは、クラシックを中心に6曲を披露。奏者一人ひとりの個性や即興性などを際立たせることができるアンサンブルならではの魅力が光った。

金管アンサンブルはトランペット、ホルン、チューバ、トロンボーンなど3〜8人の金管演奏者で編成。オーケストラでは一楽譜を複数で演奏する場合があるが、アンサンブルではそれを一人で行う。指揮者もいない。トランペット奏者の友澤剛志さん(人文1年)は「オーケストラと違い同じ楽譜を吹く人がいないため、一人ひとりの重要性が高い」と話した。

コンサートの1曲目は、沖繩民謡をジャズ風にアレンジした福島弘和作曲「てぃーちてぃーる」。トランペット3人、ホルン1人、トロンボーン3人、チューバ1人の8人が演奏した。

印象的だったのは曲の中間部。スウィングを効かせ軽快に演奏した前半部分から一転、沖繩民謡を、トランペットやホルンが優しい音色で奏でた。沖繩の美しい海や時間がゆっくりと流れる情景を思わせた。

更に、曲の終盤では前半部分の軽やかなメロディーと、中間部のゆったりとしたメロディーを織り交ぜて演奏。ジャズと民謡が融合し、新しくもどこか懐かしく胸に響いた。

5曲目には、1800年代に活躍したドイツの作曲家、C・ホミリウスの「ホルン四重奏曲変奏長調」を演奏した。第3楽章に引き込まれた。テンポは「Presto(急速)」。冒頭部分は8分の6拍子の長調で、3連符を多用しながら明るく駆け抜けた。ところが中盤では4分の2

拍子の短調に、がらりと雰囲気を変え、厳かに演奏した。

終盤では再び8分の6拍子で明るい調子に。同じメロディーを代わる代わる吹く。テンポに緩急をつける……。盛り上げに盛り上げ、楽曲を締めくくった。ホルンの柔らかい音色が時には軽快に、時には重厚に表情を変え、聞き手を飽きさせなかった。

コンサートで感じたのは、アンサンブルならではの楽しさ。オーケストラでは、トランペットやトロンボーンなどの金管楽器は後方で演奏する場面が多い。だがアンサンブルでは奏者と観客の距離が近く、一人ひとりの表情や動きがよく見える。

演奏を終えて満足げに微笑んだり、ミスを苦笑い浮かべたり。他の奏者と合わせるために楽器をゆらしたり、視線を交わしたり。同じ楽器でも、奏者によって音色は異なっていた。

友澤さんは「アンサンブルはその場の状況に合わせて演奏するため、毎回少しずつ違う」と話した。ハモニーを奏する時、一人の音が少し高めに聞こえると、他の人も少し高めに音を出し、心地よい和音になるように調整することがあるという。

終了後、会場からは大きな拍手が起きた。生き生きとした音楽が、そこにはあった。(赤島香苗) 生物学類3年、写真も)

生きた音楽の魅力感じた

アンサンブルに指揮者はいない。互いの動きや視線で息を合わせる(11月22日、ノバ小ホールで)



アンサンブルに指揮者はいない。互いの動きや視線で息を合わせる(11月22日、ノバ小ホールで)

原点



「さすが体育の先生、いつも元気が良いですね」と言われることが多い。実際のところ、そうでもない。元来虚弱体質なところを、定期的な運動で何とか体調を整えているのが実情である。少年時代は体が弱い方だった。小学生の時、朝礼で整列している時脳貧血で倒れ、保健室に担ぎ込まれたこともあった。

体育も得意な方ではなかったが、小学3年生の水泳の時間、深いプールで溺れたことをきっかけに、

「さすが体育の先生、いつも元気が良いですね」と言われることが多い。実際のところ、そうでもない。元来虚弱体質なところを、定期的な運動で何とか体調を整えているのが実情である。少年時代は体が弱い方だった。小学生の時、朝礼で整列している時脳貧血で倒れ、保健室に担ぎ込まれたこともあった。

体育も得意な方ではなかったが、小学3年生の水泳の時間、深いプールで溺れたことをきっかけに、

「さすが体育の先生、いつも元気が良いですね」と言われることが多い。実際のところ、そうでもない。元来虚弱体質なところを、定期的な運動で何とか体調を整えているのが実情である。少年時代は体が弱い方だった。小学生の時、朝礼で整列している時脳貧血で倒れ、保健室に担ぎ込まれたこともあった。

体育も得意な方ではなかったが、小学3年生の水泳の時間、深いプールで溺れたことをきっかけに、

「さすが体育の先生、いつも元気が良いですね」と言われることが多い。実際のところ、そうでもない。元来虚弱体質なところを、定期的な運動で何とか体調を整えているのが実情である。少年時代は体が弱い方だった。小学生の時、朝礼で整列している時脳貧血で倒れ、保健室に担ぎ込まれたこともあった。

体育も得意な方ではなかったが、小学3年生の水泳の時間、深いプールで溺れたことをきっかけに、

巨大地震による複合災害 発生メカニズム・被害・都市や地域の復興



東日本大震災で何が起これ、その後どのような事象が発生してきたのかについて分析・研究を体系的に紹介する。地震、津波、斜面崩壊、液状化などの自然現象と、それらによる構造物への複合的な被害状況を分析し、原発事故による

水泳と筋トレに支えられて

かけに、「海で囲まれた日本に生きていくためには泳げなくては」と幼いなりに一念発起して水泳だけに真面目に取り組む。水に入るのは好きになった。中学生になり、水泳部で活動を始めると、肩幅が広くなり、体調が良くなったことを実感した。

狭小の都立高校に進学し、プールも水泳部もないことにあせんとした。代わりに民間のスポーツジムでスキューバダイビングを習った。重い機材を運ぶのがしんどかったため、「まずは体を鍛えよう」と筑波大学入

学時にはパワーリフティング&ボディビルディング(P&B)部に入った。筋トレの効果は細身な身体にも現れ、筋肉が大きくなるのが楽しく、また不思議で興味深かった。以上が私の原体験だ。

筑波大では、生物学類に入学した。卒論から博士論文まで、原生動物「テトラヒメナ」の繊毛運動の制御について研究を進める傍ら、「水泳と筋トレは自分のアイデンティティ」と自負し、教授から「武ちゃん、実験サボって遊んでいても大丈夫か?」と言われながらも体育館通いは続いた。

大学院修了後、日本医科大学解剖学第一講座の助手だった時も、同大学の水泳部やボディビル部の部員たちに混ざってトレーニングを続けた。スケジュールに組み込まれた運動は、基礎体力の維持とメリハリのある生活

設計に役立った。また、低負荷の長距離泳は、誰にも邪魔されず研究のことを考えられる貴重な時間だと認識し、今も実験計画や結果の考察、研究費申請の内容を考えると、きは水の中である。

2000年の人事異動で、骨格筋の運動生理学の専門家として筑波大学の体育科学系(現体育学)の教員になった。学生の頃疑問に思った「筋トレで筋肉が大きくなるメカニズム」を探るべく、日夜学生たちと研究にとり組んでいる。P&B部の顧問にもなった。また、筑波大学教職員「ライミン

大学院修了後、日本医科大学解剖学第一講座の助手だった時も、同大学の水泳部やボディビル部の部員たちに混ざってトレーニングを続けた。スケジュールに組み込まれた運動は、基礎体力の維持とメリハリのある生活

武政 徹 (たけまさ とおる) 教授(分子運動生理学) 体育系・教授。1984年筑波大学生物科学卒業。90年筑波大学院生物科学研究科博士課程生物物理化学専攻修了、日本医科大学解剖学助手などを経(12年より現職)。

全日本大学バスケットボール選手権

男女アベック優勝



男女アベック優勝を果たしたバスケットボール部(12月2日、中央体育館で)

【国立代々木競技場第二体育館(東京都渋谷区)で大西美雨(社会学類2年、写真も)大学日本一を決める全日本大学選手権が11月23-29日に行われ、筑波大は男女ともに優勝を果たした。男女アベック優勝は日本体育大に続いて史上2校目の快挙。女子は6年ぶりの10回目の優勝、男子は2連覇となった。

29日に行われた決勝戦の相手は昨年と同じ東海大。今年5月の関東大学選手権の決勝では負けた「宿敵」を相手に64-59と競り勝ち、連覇を果たした。最優秀選手賞に馬場雄大(体専2年)が選ばれた。筑波大は序盤から堅い守備で東海大の攻撃を阻止す

男子「宿敵」東海大を撃破

29日に行われた決勝戦の相手は昨年と同じ東海大。今年5月の関東大学選手権の決勝では負けた「宿敵」を相手に64-59と競り勝ち、連覇を果たした。最優秀選手賞に馬場雄大(体専2年)が選ばれた。筑波大は序盤から堅い守備で東海大の攻撃を阻止す

女子 デイフエンス強化実る

28日に行われた決勝戦で、白鷗大に67-64で勝利し、栄冠を手にした。主将の藤岡麻菜美(体専4年)が最優秀選手賞とアシスト王に輝いた。昨年大会で7位に終わった筑波大は、8-10月に行われた関東大学リーグ戦で

も5位と低迷。だが今大会は快進撃を見せた。準々決勝で昨年の覇者の早稲田大に勝利すると勢いに乗り、準決勝でも大阪人間科学大に快勝した。決勝は第1ピリオド、松本愛美(同2年)の3ポイントシュートで筑波大が先制。第2ピリオドに入る

バスケット

28日に行われた決勝戦で、白鷗大に67-64で勝利し、栄冠を手にした。主将の藤岡麻菜美(体専4年)が最優秀選手賞とアシスト王に輝いた。昨年大会で7位に終わった筑波大は、8-10月に行われた関東大学リーグ戦で

る場面が目立った。パスカットからの速攻で、馬場杉浦佑成(同2年)らが点を重ねた。17-8で第1ピリオドを終えると、第2ピリオドでも小松雅輝(同4年)の3ポイントシュートなどでリードを広げた。第3ピリオドに入ると筑波大はシュートミスが目立ち始

めたが、堅実な守りで東海大に流れを渡さず、リードを最大24点まで広げた。だが最終ピリオドは東海大に猛攻を許し、一気に詰

小松は、「常に東海大を意識して練習に励んだ。デイフエンスやリバウンド、ルースボールなど、試合の流れを左右するプレーは絶対に譲らない」と強い気持ちで戦ったと話した。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

剣道 全日本選手権

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。



積極的にメンを狙う竹ノ内(11月3日、全日本選手権の2回戦で)

竹ノ内は1回戦、2回戦共に延長戦までもつれたが、相手の隙をついて一本を取り勝ち上がった。

竹ノ内は、王者として臨んだことについて「特別なプレッシャーなどは感じなかった」と語り、「負けた

のは、単純に力の差が原因。だが、自分から攻めて技を出していったので悔いはない」と振り返った。

秋のつくばを力走約1万6000人 つくばマラソンが11月22日に開催され、フルマラソンと10キロレースの2部門が行われた。筑波大学構内を

4年ぶりにフルマラソン部門に出場したという鍋倉賢治教授(体育系)は「トレーニング不足や長期間のプランクがあり、走るペースなどマラソンに必要な感覚を忘れていた。やはりマラソンは難しいと感じた」と振り返った。(前名裕、12面に関連写真)

フルマラソンは総合研究棟D前をスタートし、北部工業団地(つくば市北原)を経由して陸上競技場へ戻るコース。沿道では多くの市民がランナーを応援していた。

約1万6000人 秋のつくばを力走 つくばマラソンが11月22日に開催され、フルマラソンと10キロレースの2部門が行われた。筑波大学構内を

約1万6000人 秋のつくばを力走 つくばマラソンが11月22日に開催され、フルマラソンと10キロレースの2部門が行われた。筑波大学構内を

約1万6000人 秋のつくばを力走 つくばマラソンが11月22日に開催され、フルマラソンと10キロレースの2部門が行われた。筑波大学構内を



後半31分、同点ゴールを決めた中野(11月14日、東洋大戦で) = 茨城新聞社提供

1部リーグ復帰

三丸・中野がベストイレブン

関東大学リーグ

【東京国際大学第一サッカー場(埼玉県坂戸市)で森脇慎】4月から行われていた関東大学2部リーグの最終戦が11月14日に行われ、筑波大は東洋大に1-1で引き分け2位を守り、来季1部リーグへの昇格を決めた。昨季、戦後初めて2部リーグに降格したが、1年での復帰となった。D

3位の関東学院大と勝ち点差1、4位の東洋大と3差の2位で最終戦を迎えた筑波大。勝てば昇格が決まるが、2点差以上で負けた場合は順位が逆転されるという条件があった。だが前半のシュートはゼロ。逆に43分にPKで先制を許した。

だが失点しても、「選手たちは落ち着いてプレーしてくれ」と(小井土監督)と、体音系・助教。後半になると、徐々にチャンスが増え、シュートも出始めた。すると31分、筑波大は自陣でボールをカットすると速攻。右サイドで中野がボールを受けるのとドリブルで中央へ進入し左足でミドルシュート、ゴールネットを揺らした。同時刻に行われていた試合で、関東学院大が負けているという情報が入ると、チームは守備を固め、試合終了まで守り抜いた。

小井土監督は「昇格が決まり、ほっとしている。来季に向け、基礎技術を向上させたい」と語った。

サッカー

【東京国際大学第一サッカー場(埼玉県坂戸市)で森脇慎】4月から行われていた関東大学2部リーグの最終戦が11月14日に行われ、筑波大は東洋大に1-1で引き分け2位を守り、来季1部リーグへの昇格を決めた。昨季、戦後初めて2部リーグに降格したが、1年での復帰となった。D

蹴球部の三丸拓(体専4年)が来季からJ1・サガン鳥栖に加入することが発表された。11月24日に筑波大学内で契約を行い、「1年目から試合に出続けられる選手になりたい」と意気込みを語った。

三丸は栃木県立真岡高等学校出身。筑波大進学後は1年生時から試合に出場し、正確なクロスや武器に主にサイドバックとして活躍した。172センチ、69キ

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

柔道

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

【日本武道館(東京都千代田区)で小宮山瑛生(社会学類1年、写真も)剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日に行われた。

訂正とおわび 3224号8面「記録ファイル」内の「女子サッカー」の記事で「1勝6敗1分、勝点4」とあるのは「1勝6敗1分、勝点1」の誤りでした。10月10日に行われた。おわびして訂正いたします。(体育系・准教授)は、能

帝京大から大金星

後半 17点差逆転

【上棟木公園陸上競技場(東京都八王子市)で鈴木拓也(人文学類4年、写真も) 関東大学対抗戦が11月29日に行われ、筑波大は既に5連覇を決めている帝京大に20-17で勝利した。帝京大は2012年12月の筑波大戦で敗れて以来、大学チーム相手に公式戦50連勝を続けていたが、その記録を止める大金星を挙げた。筑波大の最終成績は5勝2敗となり4位以上が確定し、12月から始まる全国大学選手権の出場権を獲得した。

関東大学対抗戦

ラグビー

筑波大は前半19分までに3トライを決められ、0-17と大差リードを許す苦しい立ち上がり。だが中盤以降は帝京大にミスが目立ち追加点を与えなかった。一方、攻撃陣は何度も敵陣に攻め込みゴールラインに迫ったが、帝京大の固いディフェンスを崩せなかった。

後半はブレイクダウン(タックル後のボールの奪い合い)を修正した筑波大が流れをつかんだ。4分に亀山宏太(体専4年)がペナルティーゴールで3点を返し、12分には鈴木啓太(同2年)がトライ。その後も積極的に攻め続け、30分に稗田優志(同4年)のトライで13-17と4点差まで迫ると、35分には再び鈴木がトライを決め、逆転。試合終了間際に帝京大に攻められるが、最後まで守り切り、後半は得点を許さず逃げ切った。

古川拓生監督(体育系・准教授)は「後半に試合の流れをしっかりとつめた。後半は帝京大をシャットアウトでき、「やっとな」という気持ちになった」と話した。



後半4分、ペナルティーゴールを決める亀山(11月29日、帝京大戦で)

集中しミスを修正

観戦記

「帝京大戦に向けて対策はしてきたが、あくまでも自分たちのプレーをすること。筑波大は試合中にミスを修正していった。例えは、グラウンドの状態の悪さから序盤は踏ん張りがかかず、スクラムが上手く組めなかった。だが徐々に対応し、後半12分にはスクラムからトライを決め、筑波大ペースに持ち込んだ。前半序盤に攻め込まれたディフェンス陣も、厳しいタックルで前半19分以

降は得点を許さなかった。歴史的な勝利にも、筑波大に慢心はない。古川監督は「帝京大は既に対抗戦優勝を決めていた。そこに生まれた(気持ちの)ゆるみが入り込めたのかも知れない」と話し、帝京大の岩出雅之監督も選手の気持ちに「スキがあったと認めた。一方で、この勝利でチームは大学選手権に向け勢いづいた。古川監督は「スクラムや連携など、チームは成長している」と手応えを感じている。この勢いそのまま、初の日本一を勝ち取ってほしい。(鈴木拓也)



東京五輪後は医者になりたいと語る福岡(12月1日、中央図書館で) = 田中開撮影

ラグビー W杯日本代表福岡堅樹

「次回はチームを引っ張る」

初出場となったW杯を振り返って。初戦で南アフリカに勝利するなど、歴史的な瞬間に立ち会えたのは光栄です。スタメン出場したスコットランド戦は初戦から中3日と間がなく、疲れや準備不足のためチーム全体でいいプレーができず、自身もアピールできませんでした。ただW杯やそれまでの国際試合を通して、持ち味のスピードは世界の舞台でも通用すると感じました。一方で、フィジカル面はまだ鍛えないといけない。

日本代表の練習や試合で得たことは、栄養管理や体のケアに対する意識が高まりました。栄養管理などの大切さは、筑波大ラグビー部の選手にも少しずつ伝えています。筑波大のスポーツ環境は、設備や研究施設は整っているし、五輪選手だった教員も多く、恵まれていると思います。ただ部活動の選手が施設を活用しきれないなど、改善すべき点はある。ラグビー部で活動している時も、リハビリなどで研究施設をもっと使っていくと感じます。

また、さまざまな競技でトップレベルの選手が多く、日本の選手が多くの励みになります。W杯後に退任した日本代表のエディ・ジョーンズ前ヘッドコーチは「大学ラグビー中心の現状では、世界レベルの日本人選手は出てこない」と指摘しています。他国の才能ある選手たちは、高校卒業後からトップレベルで戦っている。日本の大学生との経験の差は否めません。日本でも大学とトップリーグを比べると力の差は大きい。日本の大学ラグビーは人気がある。

大学選手権 目標は日本一

り、大学でプレーしたいという中高生は多い。ですが本場に日本のラグビーを強くしたいなら、大学を卒業してトップリーグに行く選手が多くなってほしいです。また大学に所属しながらトップリーグに参加できるような制度を作ってもいいのでは。いずれにしても変えなければいけないところだと感じています。

一方で大学ラグビーの底上げも必要だと思えます。例えばトップリーグの経験者が体作りや技術的な知識を伝えるなど、大学とトップリーグが繋がってほしい。今後の進路は、大学生活最後の全国大学選手権への抱負は、関東大学対抗戦で、帝京大の公

式戦50連勝を止め、勢いをつけた。2019年のW杯日本大会に優勝した。もちろん、勝ったことに慢心せず、まずは予選を突破したい。大学ラグビーの集大成として、またW杯を経験した身として責任あるプレーでチームをさらに勢いづきたい。目標は国立大初の日本一です。

ライバルの存在が力に

目標は、2019年のW杯日本大会に優勝したい。今回のW杯は、ベテランの廣瀬俊朗選手(東芝)に慢心せず、まずは予選を突破したい。大学ラグビーの集大成として、またW杯を経験した身として責任あるプレーでチームをさらに勢いづきたい。目標は国立大初の日本一です。

顔



日本学生選手権 200m 背泳ぎで優勝

斎藤ゆり子(体専1年)

を生かして全国2位になった。高校生になると1年生の時からインターハイに出場し、6位、2年生の時は2位、3年生では3位に入った。だが、どうしても1位を逃がっていた。同じスイミングスクールの先輩の諸貴瑛美(平成26年度体育専門学群卒)にあこがれ筑波大に進学すると、西脇とチームメイトになった。これ

選手権で、序盤から前に出るそのまわり道を保ち大会新記録で優勝した。「本番をイメージして練習を重ねることが記録につながったと話す。また、練習や大会で、西脇に先着できるようにもなった。「今では西脇を良きライバルと思えるようになった。互いに教え合い、競い合うことが、成長につながっている」と感じている。

防衛省が公募



掛谷英紀准教授

防衛省が大学などの研究者を対象に、国の安全保障に役立つ技術研究の公募を行った背景は何か。また大学が軍事研究を行うことについて、どのようなメリットやデメリットがあるのか。工学倫理に詳しい掛谷英紀准教授(シス情系)に聞いた。

防衛省が大学などの研究機関を対象に、今回の公募を行った背景は、

具体的なシナリオの議論を

「防衛省が大学などの研究機関を対象に、今回の公募を行った背景は、

背景には、日本を取り巻く安全保障環境の変化がある。例えばこれまで日本は米国の同盟関係で国の安全を保ってきたが、現在、米国は軍事的影響力が低下している。また中国が軍事的に台頭しているほか、北朝鮮も核開発を行うなど周辺地域が不安定になってきている。このため、日本は防衛力を増強せざるを得ない状況になっており、大学の研究を軍事に活用する動きが出てきたのではないかと懸念されている。

視点

徹底した議論必要

今回の学生アンケートでは、文系と理系の考え方の違いが浮き彫りになった。日本の大学が軍事への転用を見据えて研究することの是非について、文系は反対派が32.1%で賛成派の26.8%を上回った。これに対し、理系は賛成派が42.0%で、反対派21.8%の約2倍に上った。

理系に賛成派が多い背景には、軍事用と民生用の研究の線引きの難しさがあると思う。賛成派の理系学生112人のうち72人が、賛成する理由に「軍事転用を恐れていた民生用の研究も自由にできない」と答えた。また、ある理系教員の一人は本紙の取材に「自分の研究を含め、多くの理系の研究を、多くの理系の研究

「最適化」のプロジェクトを進める上で苦勞するのは「数式を使って人や物を動かすことに抵抗を感じる人が多い」と(吉瀬教授)ことだという。「ずっと手作業でやってきたのだからコンピューターでできるはずが、最後は人の手を借りている。それでも、担当の教職員からは『作業が楽になった』とおおむね好評だ」と手ごたえを感じている。

「最適化モデリング」を用いれば、例えば飲食店の従業員の最適化シフトを組むこともできる。「ベテランと新人を同じシフトに入れない」「ある人とある人は仲が悪いので別の日に働いてもらいたい」などさまざまな要望に対応。皆が働きやすいシフトを組める。



吉瀬章子教授



筑波大学の全学生は体育の授業が必修だ。サッカーにダンス、柔道。さまざまな種目があるが自分はこの種目にしようか。第一希望のダンスは人気だから、定員を超えてしまう。抽選に落ちたら不人気な種目に回されてしまう。こんなふうな迷い、望まない種目を受ける学生は昨年度まで大勢いた。この問題を解決したのが、吉瀬章子教授

最適な組み合わせを算出 体育の種目選択で実用化

最小にする学問だ。工場生産計画や道路保全計画の効率化などに使われる。

この研究が、今秋から筑波大学の「体育」の種目選択で実用化された。体育では希望種目を選ぶが、種目に定員がある

「最適化」のプロジェクトを進める上で苦勞するのは「数式を使って人や物を動かすことに抵抗を感じる人が多い」と(吉瀬教授)ことだという。「ずっと手作業でやってきたのだからコンピューターでできるはずが、最後は人の手を借りている。それでも、担当の教職員からは『作業が楽になった』とおおむね好評だ」と手ごたえを感じている。

「最適化モデリング」を用いれば、例えば飲食店の従業員の最適化シフトを組むこともできる。「ベテランと新人を同じシフトに入れない」「ある人とある人は仲が悪いので別の日に働いてもらいたい」などさまざまな要望に対応。皆が働きやすいシフトを組める。

筑波での学び 指導に生かす

卒業後も競技を続け、成10年度体育専門学群卒)



卒業生からの手紙

1994年に筑波大学体育専門学群に入学した。もともとアイスダンスの選手だった私は、推薦入試に合格。入学後は千葉県松戸市にあったリノクと学校を行き来する生活だった。宿舎に入居していたが、リンク近くの松戸市内の美家で暮ることが多かった。

大学入学当初から競技と授業の両立に苦しんだこともあり、2年生になると同時に休学してアメリカで1年間修行をして1年後復学した。そのため私は94年入学だが99年卒業である。

筑波大の体育専門学群は、多くの競技で大学ス



元フィギュアスケートアイスダンス選手 トリノ五輪日本代表 木戸章之さん

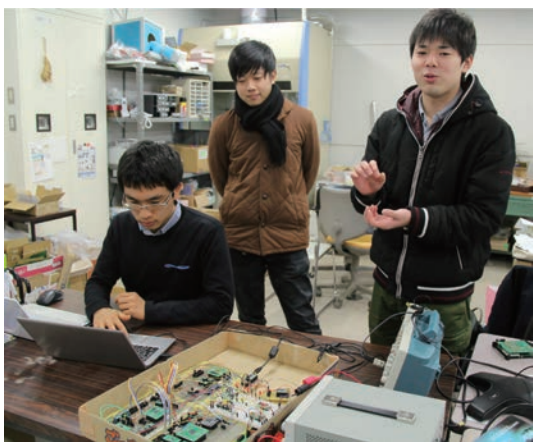
「一科目2単位だったと思う」講義が中心だった。講義は、人間の社会にとって競技とはどんな意味を持つのかや「体育が戦争に利用されてきた歴史的背景」などの大きな話や「人間がなぜ大きな話やスポーツをする」という文化的にどんな意味を持つのかなどの哲学的・概念的な話が多かったように記憶している。もちろん生理学や解剖学、体育授業の方法論などの選手である同級生



ワスレナグモ

11月も半ばになると、めっきり生き物の姿を見かけなくなるが、それでもいつものように出現してくれるものもある。ワスレナグモは、そんな生き物の一つだ。この特徴的な名前前は、初めて発見されたから再び発見されるまで十数年かかるといわれる。雄は成体になると、歩くのに適した脚の長いすらっとした姿にかわり、雌を求めて餌も食べずに歩き回るといわれる。その姿の違ひから当初は別種とされていた。筑波大学構内の全域に生息していると考えられ、それほど数は少ない。このクモを忘れないでいたら、きっと出会えることができるだろう。写真文川原良輔 生物1年、野生動物研究会

「結」チーム 15万円の寄付集める 2号機打ち上げに向け



電気回路の試験の説明をする永田さん(右) (12月2日、総合研究棟Bで) =田中開撮影

筑波大学生が製作する小型人工衛星「結」の開発チームは、2百目の衛星の製作資金を支援するために、インターネット上で寄付を募るクラウドファンディングを使い、総額約15万円の寄付を集めた。寄付金は衛星システム情報工学研究所が宇宙空間での温度や真空環境下で動作するかどうかを調べる試験装置の使用料や、衛星に搭載する部品代に充てられる。

これまで「結」の開発・製作には、筑波大学院のシステム情報工学研究所が宇宙空間での温度や真空環境下で動作するかどうかを調べる試験装置の使用料や、衛星に搭載する部品代に充てられる。

「結」の1号機は2011年3月に開発を開始。13年2月に宇宙航空研究開発機構(JAXA)のロケットの相乗の衛星として打ち上げられたが、内部に何らかの不具合が生じ衛星からの電波を受信できず、昨年6月末に大気圏に突入し消滅した。昨年7月から2号機を製作しており、現在は試作品を使い、電子基板やソフトウェアの改良、衛星本体の大きさの微調整を進めている。来年2月に衛星を完成させ6月頃までに打ち上げられる予定だ。(井口彩)



日本映画で文化発信を

ジャカルタで平嶋健人(社会学部4年、写真も)インドネシア・ジャカルタで先月26日から今日1日、過去最大規模となる日本映画祭「新作満喫!日本映画とアニメーション2015」が開催された。6日間の期間中に「桐島、部活やめるってよ」や「舟を編む」(小さいおうち)といった近年のヒット長編11作品と短編アニメ19作品がそれぞれ2回インドネシア字幕で上映された。

「桐ノ記」の上映会を覗いてみた。同作は「博士の愛した数式」で知られる小泉監督が手がけた映画で、江戸時代の武家社会を描いた時代劇。「切腹」や「封鎖制度」を題材としており、小泉監督も「難しいテーマだから、受け入れてもらえない心配」と漏らしているが、客席を見て驚いた。180席ほどの客席がほぼ埋まっていたのだ。

質疑応答でも次々に手がかり、上映後には小泉監督の周囲に人だかりができるほどの盛況ぶり。観客に感想を聞くと「琴線に触れる素晴らしい映画だった」「美しい日本の風景に感動して涙が出た」など、好意的な感想が目立った。

小泉監督に日本語で熱心に話しかける女性があった。以前から好きだった俳優の岡田准一さんの出演がきっかけで、上映後には小泉監督の周囲に人だかりができるほどの盛況ぶり。観客に感想を聞くと「琴線に触れる素晴らしい映画だった」「美しい日本の風景に感動して涙が出た」など、好意的な感想が目立った。

観客の反応に感動したという小泉監督は「映画は言葉を超えて楽しめる」と実感した。日本の文化や歴史を知ってもらうためにも、映画は大事な表現手段だ」と話し、もっと日本映画を海外に発信すべきだと主張した。

映画祭を共催した一般社団法人ジャパン・インドネシアは世界有数の親日国で、世界第2位の約90万人の日本語学習者がいるとされる。ジャカルタでも映画は気軽に立ち寄れる庶民の娯楽。人口増加と経済成長により、映画市場は今後も拡大する見込みだ。

満席の回もあり、どの作品も好評だった映画祭の活況を見る限り、日本文化の発信にアニメやマンガだけでなく、邦画を活用する手もあると感じた。

事実、今回の上映作品は全インドネシア初公開だった。会場となった映画館「CGVプリツ」のディアン・スナルディ営業部長によると「日本のアニメ映画はすでに人気だ。実写の映画にも潜在的な需要がある」というが、アニメ以外の実写映画が上映されることは珍しいようだ。映画関係

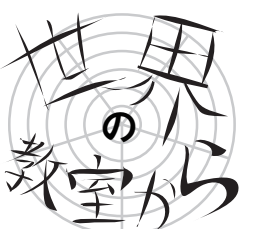


上映後に観客から質問を受ける小泉監督(左) (11月28日、ジャカルタで)

観客の反応に感動したという小泉監督は「映画は言葉を超えて楽しめる」と実感した。日本の文化や歴史を知ってもらうためにも、映画は大事な表現手段だ」と話し、もっと日本映画を海外に発信すべきだと主張した。

映画祭を共催した一般社団法人ジャパン・インドネシアは世界有数の親日国で、世界第2位の約90万人の日本語学習者がいるとされる。ジャカルタでも映画は気軽に立ち寄れる庶民の娯楽。人口増加と経済成長により、映画市場は今後も拡大する見込みだ。

満席の回もあり、どの作品も好評だった映画祭の活況を見る限り、日本文化の発信にアニメやマンガだけでなく、邦画を活用する手もあると感じた。



変えました。毎日が目まぐるしく過ぎ、気付けばもう今年が終わりに差し掛かっています。

モスクワといっても、私は中心地から少し離れた物静かな地域の寮で暮らしています。

色んな言語が飛び交います。「国際共通語は英語!」と言われるが、時世ですが、寮生活でのやり取りはすべてロシア語です。寮ではロシア語の授業も行われており、整備

モスクワに来ると2カ月半。周りの生活にもようやく慣れました。日本の皆様お元気でしょうか? 思えば、今年3月にロシア語圏を対象とした人材育成プログラム「GENIS」(大学の海外展開強化事業)の海外研修に参加し、同プログラムでの留学を決意したことが、私を大きく



留學先の写真展示 海外の様子伝える 学生や教職員が留学先や旅先で撮影した写真を展示する「GC(グローバル・コムズ)海外体験写真展」が、10月30日から11月24日までチューデント・コモンズで行われた。

この写真展は、留学経験者の「自分の留学の経験を学生たちに伝え、書類だけでは分からない渡航先の様子を伝えたい」という要望を受け、昨年開催された。

実行委員会代表の後藤摩路さん(障科1年)は「準備や運営が上手くいかないこともあったが、本番は無事に終わり良かった」と語った。(前名裕一、写真も)

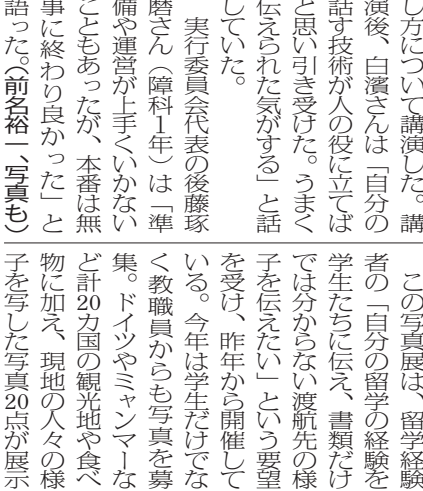
バスを持った足大学です。私は外国語学部ですが、同学部の日本語学科の学生には本当に「よく助けられます。休日には一緒に市内を散歩し、モスクワの美しい文化や自然に触れています。博物館や美術館に足を運べば、ドストエフスキーなどの詩人やチャイコフスキーに代表される音楽家、その他数々の偉人が残した「ヨーロッパ・ロシア」の美しい文化を身近に体感できます。

帝政期のロシアの都であるサンクトペテルブルクも訪れましたが、簡単には言い表せないほど、壮大で美しさにあふれていました。またモスクワに近いトゥバ共和国を訪れた際には、笛のような音を出して歌う伝統的な喉歌「ホーメイ」を聞きました。同じロシアでも

ラジオ司会者講演 伝えるコツ教える

優れたコミュニケーションの技術を持った人の講演などで、「伝えるコツ」を多くの人に教えることが目的のイベント「スピーカーの多くは筑波大生だが、他に

「結」の1号機は2011年3月に開発を開始。13年2月に宇宙航空研究開発機構(JAXA)のロケットの相乗の衛星として打ち上げられたが、内部に何らかの不具合が生じ衛星からの電波を受信できず、昨年6月末に大気圏に突入し消滅した。昨年7月から2号機を製作しており、現在は試作品を使い、電子基板やソフトウェアの改良、衛星本体の大きさの微調整を進めている。来年2月に衛星を完成させ6月頃までに打ち上げられる予定だ。(井口彩)



人に伝わりやすい話し方について講演する白濱さん (11月29日、BiViつくばで)

留學先の写真展示 海外の様子伝える 学生や教職員が留学先や旅先で撮影した写真を展示する「GC(グローバル・コムズ)海外体験写真展」が、10月30日から11月24日までチューデント・コモンズで行われた。

この写真展は、留学経験者の「自分の留学の経験を学生たちに伝え、書類だけでは分からない渡航先の様子を伝えたい」という要望を受け、昨年開催された。

実行委員会代表の後藤摩路さん(障科1年)は「準備や運営が上手くいかないこともあったが、本番は無事に終わり良かった」と語った。(前名裕一、写真も)

バスを持った足大学です。私は外国語学部ですが、同学部の日本語学科の学生には本当に「よく助けられます。休日には一緒に市内を散歩し、モスクワの美しい文化や自然に触れています。博物館や美術館に足を運べば、ドストエフスキーなどの詩人やチャイコフスキーに代表される音楽家、その他数々の偉人が残した「ヨーロッパ・ロシア」の美しい文化を身近に体感できます。

帝政期のロシアの都であるサンクトペテルブルクも訪れましたが、簡単には言い表せないほど、壮大で美しさにあふれていました。またモスクワに近いトゥバ共和国を訪れた際には、笛のような音を出して歌う伝統的な喉歌「ホーメイ」を聞きました。同じロシアでも

第41回雙峰祭 浪漫あふれた3日間

イラスト=姉崎信(心理学類3年)



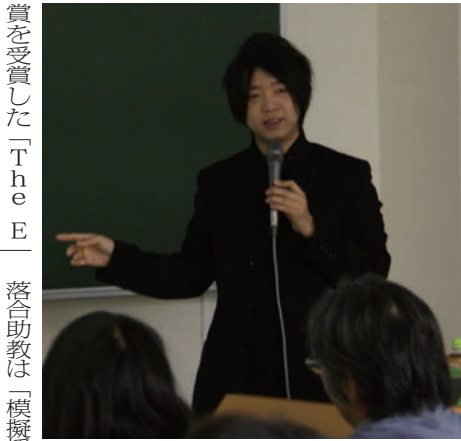
落合助教が模擬授業

11月7・8日、筑波大学の教員が模擬授業を行う「筑波塾」が3A棟で開催された。8日に行われた落合陽一助教(図情メ系)の授業の内容は、コンピュータグラフィックス(CG)の歴史や自身の最先端の研究など多岐の分野に渡った。筑波大生やつくば市民だけでなく、茨城県内外から来場者約80人が訪れ、立ち見が出るほどの大盛況となった。

筑波塾

落合助教は、コンピュータ技術や、コンピュータを使って作成するCGの歴史を簡単に説明。落合助教は「CGの技術自体は既に完成しており、今はそれをどう使うかが考えられている」と指摘した。

その後、落合助教が2010年にメディアアートの世界的な祭典で最優秀賞を受賞した「The Eye Writer」を紹介した。これは、難病の「筋萎縮性側索硬化症」(ALS)を患う芸術家の目の動きなどを追跡する装置を使い、目線の動きで絵を描くプロジェクトだ。同助教はこれを「芸術と技術を組み合わせた新たな社会運動」と強調。「メディアアートや技術で社会を変えられる」と話した。



メディアアートについて語る落合助教(11月8日、3A棟で) = 新田明夏撮影

落合助教は「模擬授業をすることは少ないので、貴重な機会だった。これを機にメディアアートに関心をもちたい」と話した。筑波大学の学園祭(雙峰祭)を間近に控えた11月初旬、松見池前の広場で、女子学生たちがAKB48などのアイドルグループの曲に合わせて踊っていた。広場の近くにある第一エリア食堂のガラス戸に映る自分たちの踊りを細かくチェック。メンバー同士で振り付けを教え合いながら、同じ箇所を繰り返して練習した。アイドルの華やかなイメージとは異なり、練習風景は「体育会系」だ。今年で創立3年目。男子16人、

アイドル研究会

アイドルの魅力伝える



学園祭のステージで躍るメンバー。笑顔が輝かしい(11月7日、石の広場で) = アイドル研究会提供

今年で創立3年目。男子16人、

メンバーは女性アイドル好きばかり。石田えみりさん(知識図書1年)

当日、華やかな衣装に身を包んだメンバーがステージに登場すると、会場からは大きな歓声が上がった。観客のペンライトがカラルルに会場を彩る中、メンバーは完璧なダンスを次々に披露した。会場の熱気が最高

受け、ある議員が「若者の政治への関心が低下していることは自分たちも十分理解している。どのような選挙なら投票に行きたいか教えてほしい」と話し、より良い選挙の方法や若者の関心を集めるような政治の在り方について議論した。カフエを主催したNPO法人ドットジェイビーの学生スタッフ、田中真弥さん(国総1年)は「政治カフエへの参加を通じ、政治への関心を高めたい」と話した。(石川泰彦)

参加した男子学生は「政治について話したり議員に会うのは貴重な機会なので、参加して良かった」と話した。(石川泰彦)



「ミス筑波」に選ばれた菅原さん(11月6日、石の広場で) = 森脇慎撮影

個性で魅せる

菅原さんは、筑波大の放送サークル「筑波放送協会」(THK)に所属している。「永田恭介学長が来年度のつくばに出場する」とが決められたという虚構のニュース原稿を読み、会場を笑いの渦に包んだ。野音楽サークル「E.L.L.」に所属する西巻さんは、得意のギター演奏を披露し会場を沸かせた。投票は前夜祭の後から後夜祭の前まで、学内7カ所の投票所とインターネット上で受け付けた。ミスター・ミス部門共に962票の投票が集まり、西巻さんは251票、菅原さんは383票を獲得した。西巻さんは「受賞できてうれし。食卓などで自分を見かけたら話しかけてほしい」と話した。菅原さんは「周りの人に『投票したよ』と話して」と喜びを語った。

各水槽の前では会員が生物の生態や特徴について解説した。7・8日、海洋研究会による海に生息する生物を集めた「うみのいきもの展」が1B棟で行われた。海洋研究会は、遠方の海で素潜りなどを行う学生サークル。展示された生物は静岡県下田市や千葉県館山市などの海で会員自らが捕獲・飼育したもので、ミノカサゴやネコザメなど約10種。会場には水槽が並び、水族館のようだった。

「解説が分かりやすかった。飼育しているの聞き驚いた」と話した。筑波大学の学園祭(雙峰祭)を間近に控えた11月初旬、松見池前の広場で、女子学生たちがAKB48などのアイドルグループの曲に合わせて踊っていた。広場の近くにある第一エリア食堂のガラス戸に映る自分たちの踊りを細かくチェック。メンバー同士で振り付けを教え合いながら、同じ箇所を繰り返して練習した。アイドルの華やかなイメージとは異なり、練習風景は「体育会系」だ。今年で創立3年目。男子16人、

昆虫の標本を展示

昆虫の標本や生態を紹介する「ザ・むし・ワールド」が7・8日に2A棟で行われた。テーブルにすき間無く並べられた昆虫の標本に、来場者は興味津々だった。企画したのは、昆虫好きの学生が集まる団体「つくばバグ」。今までも昆虫を題材に、子ども向けに自然や生き物の大切さを教えるイベントなどを開いてきた。会場では、「つくばバグ」のメンバーが採集したチョウやカブトムシなどの昆虫標本数千点を展示。アリアやバッタなどに扮したメンバーも登場した。

女子18人の計34人で活動している。男子はアイドルのライブDVDを見たリ、バンドを組んで「ももいろクローバーZ」などの歌を練習。女子はアイドルのダンスを完璧に再現する「完コピ」を目標として、練習を繰り返している。メンバーは女性アイドル好きばかり。石田えみりさん(知識図書1年)

今回のテーマは「若者が日本を変えるためにはどうしたらよいか。あるグループの女子学生は「今の若者は、投票しても自分たちが不満に思っている現状は何も変わらないと感じ、選挙に行かなかったり政治に関心を持たない人が多いのではないかと指摘。これを

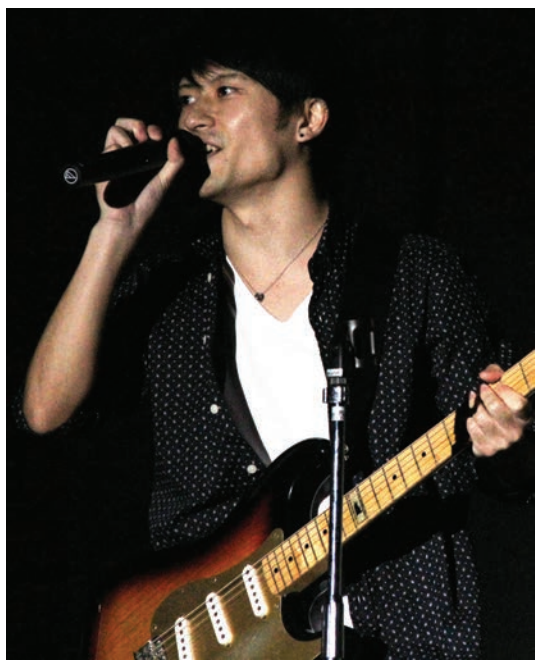
政治カフエ開催 議員と話し合う カフエのようならラックとした空間で、今の日本の政治について多様な切り口から議論する政治カフエが11月28日に7A棟で行われた。茨城県内の地方議員4人と学生24人が参加した。

政治への関心が低下していることは自分たちも十分理解している。どのような選挙なら投票に行きたいか教えてほしい」と話し、より良い選挙の方法や若者の関心を集めるような政治の在り方について議論した。カフエを主催したNPO法人ドットジェイビーの学生スタッフ、田中真弥さん(国総1年)は「政治カフエへの参加を通じ、政治への関心を高めたい」と話した。(石川泰彦)

Who's Who?

今年の雙峰祭で「ミスター筑波」に選ばれた

西巻 祐 さん (知機2年)



前夜祭でパフォーマンスを披露する西巻さん (11月6日、石の広場で) = 森脇慎撮影

11月6〜8日に行われた第41回雙峰祭のミス・ミスターコンテストUKUBA COLLECTION 2015(つくし)で、6人の出場者の中から「ミスター筑波」に選ばれた。「全然自信がなかったけど、とにかく驚きでした」とほかにむ。大の音楽好きで前夜祭のパフォーマンスで

はギターを披露した。昨年4月には4人組ロックバンドを結成。ギターを担当しており、月に1、2回ライブに出演したりCDを自主制作するなど、精力的に活動している。千葉県印西市出身。兄の影響で幼い頃からロックバンド「Arc〜en〜Ciel」をよく聴いていた。そのう

ち自分でも演奏したくなり、中学1年の冬、親にギターを買ってもらった。毎日欠かさず練習し、自分で作曲することも。中学3年の時には友人とバンドを組み、高校の文化祭で初めてステージに立った。2010年に筑波大学の工学システム学類に入学。軽音楽サークル「E.L.L.」の活動に熱中した。ここでも仲間とバンドを組み、練習に日夜励んだ。「大学生活の中で一番輝いていた」と振り返る。3年生の10月にサークルを引退すると、音楽漬けの日々から一転し、夢中になれるものがなくなった。「刺激がなく、毎日が過ぎるのが早かった。バンドをやりたい、という思いが日に日に増していった」その後就職活動し、大手医療機器メーカーからの内定を得たが「本気でバンドをやりたい」という思いをあきらめられず、内定を辞退した。親からは反対されたが「なぜ今就職しないの

音楽漬けの大学生活 観客の笑顔が生きがい

か、「なぜバンドをやりたいのか」などをレポート用紙4枚にわたって書き上げ、押し切った。昨年、筑波大学大学院システム情報研究科に進学。サークルで知り合った後輩と中高の同級生3人を誘い、4月に「INK PUNK(インク・パンクス)」を結成した。メンバーで作曲・演奏し、現在13曲のオリジナル曲がある。今年9月には、アマチュアバンドコンテスト「HOTLINE」の千葉エリアで、438組の出場者の中から第2位にあたる「優秀賞」を受賞した。バンド活動を行う上では、発信することを大切にしている。知ってもらいたく、きっかけを少しでも多くつくるためだ。楽曲のプロモーションビデオやギターの演奏を動画サイトに積極的に投稿しており、「演奏する姿が格好よくてびっくりに」「ボカルの声が素敵」など好評だ。また今年5月からJR柏駅前で、一人で弾き語りライブもしている。「最初は恥ずかしかったが、肝

が据わってきた。自分の演奏で人を笑顔に出来ることに、「生きがい」を感じたという。つくしへの参加を決めたのも、バンドを少しでも多くの人に知ってもらうためだ。つくしでは11月6日の前夜祭で、各出場者が歌などのパフォーマンスと、特定のお題に沿った演技を披露。それらを基に約2日間学内の7カ所の投票箱(インターネット上で投票が受け付けられ「ミスター筑波」「ミス筑波」が決まるしくみだ。西巻さんは得意なギターを演奏し、歓声を浴びた。また「長年付き合った彼女に感謝の気持ちを伝える」というお題で演技を披露し、会場を沸かせた。「演技の台本を考えるのが大変だった。終わった時はほっとした」

大学院卒業後は、バンド活動に本腰を入れていく。「バンドで夢を与えたい。食欲に自分の人生にチャレンジしていきたい」(佐々木悠里「人文学類1年」)

次号は

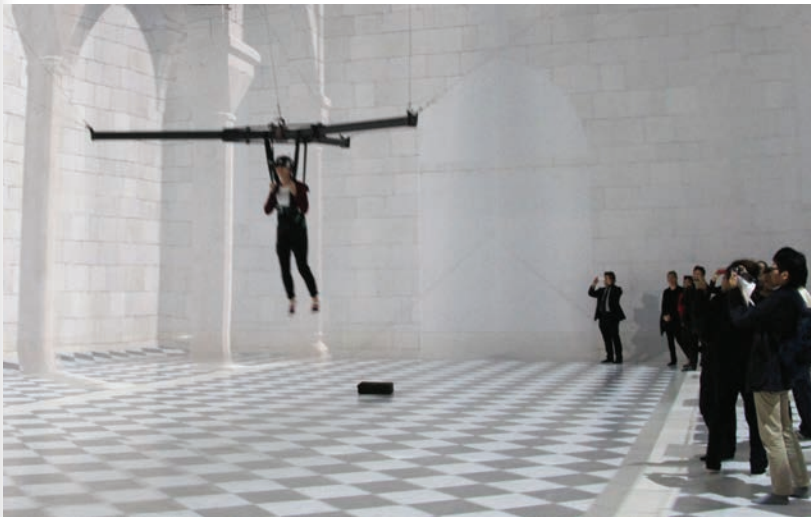
1月25日(月)

発行予定です

編集後記

11月は体育系の部の躍進が目立ちました。バスケットボールでは男女共に全国制覇、蹴球部は関東大学リーグで1年での1部復帰、柔道では能智亜衣選手(体専2年)が体重別の良い成績を残せるということでしょう。スカウティンが優勝、ラグビー部は帝京大学が学生チーム相手に続けていた公式戦の連勝を50で止める大金星を挙げました▼筑波大学は体育系の活動が盛んです。各々が強豪ぞ

エンパワースタジオ公開



壁に風景が投影されたVR空間で飛行体験をする本紙記者(11月12日、エンパワースタジオで) = 広報室提供

2面へ

DANCE EXPRESS



ステージで応援メドレーを披露する筑波大学応援部 WINS (11月18日、中央体育館ダンス場で) = 橋野朝奈撮影

5面へ

つくばマラソン



一斉にスタートする選手たち (11月22日、総合研究棟D前で) = 前名裕一撮影

6面へ

秋季スポーツ・デー



学生企画「SD コロシウム」で、盾を手に球を投げ合う参加者(11月14日、陸上競技場で) = 前名裕一撮影

10面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活